

路地百選推薦書

推薦者氏名：鈴木 隆男

推薦する路地（のまち）の名称	砂町銀座商店街（振）
所在地	事務所：江東区北砂 4 - 18 - 14

【推薦する理由（路地のよいところ）】

砂町銀座商店街は江東区の砂町地区にあり、明治通りと丸八通りの間、街区約 670 メートルの通りに生鮮 3 品店や惣菜店など最寄品店を中心に約 180 の店舗が軒を並べている。

同商店街に多い生鮮 3 品店や惣菜店の強みは、家庭内労働にある。これが、低価格販売を可能にし、物が良く“やすい”が評判になり、遠く千葉などからも来街者が多いという。幅 3~5 畝ほどの道路は、はみ出し陳列のため狭い道がさらに狭くなり、売り手と買い手が肩を寄せ合う狭さが何故か心地よいという。さらに、売り子の威勢の良い客引きの声、店から漂う惣菜の匂い、うずたかく積まれた商品、客の値切る声、近所の住民、リックを肩に掛けた遠方からの客、ここには、視・聴・嗅・味・触の五感のすべてを興奮させる商店街としての魅力がある。



砂銀名物
七夕まつり
3 日間で
20 万人が
訪れるという

路地	面積	約 h a	路地の延長	約 670 m
のまちの概要	まちの成り立ち、特色等	昭和 7 年 10 月、平和会（当時の商店街名）設立記念式典で城東区選出の東京市議会議員の「この通りが早く砂町銀座と呼ばれるような一大繁華街ならんことを望む」との祝辞を受け、その晩、早速役員会を開きこの通りの名前を砂町銀座に変更したのが始まりである。戦前は、商店数 30 店舗ほどの普通の商店街であった。戦争中は商店も強制疎開されたが、戦後まもなく焼け野原の通りに商店が戻り始め、昭和 25 年から 30 年頃、住宅の再建や工場進出に合わせ飛躍的に商店数が増加し、昭和 38 年頃には、ほぼ現在の形となる。現在の商店数約 180 店舗、生鮮 3 品など日常生活必需品店が大半である。		

路地のまちの概要は記入できる範囲で結構です。それぞれの枠の大きさは各自で調整願います。